

令和4年度障害のある方のスポーツに関する調査

令和5年3月 滋賀県

I 調査概要

1 調査目的

滋賀県スポーツ推進計画における指標の一つとするとともに、今後の県の障害者スポーツ施策における基礎資料とするため

2 調査方法及び調査内容

(1) 調査方法

無記名式の質問紙法

以下の団体を通じて調査

- ①公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会
- ②公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会
- ③特定非営利法人滋賀県精神障害者家族連合会

(2) 調査対象の範囲及び回収結果

滋賀県内在住7歳以上の障害児・者

(1) の団体を通じて4,100通を発送。

回答者数は1,034人（回収率25.2%）

(3) 調査内容

主な調査内容は以下のとおり。

- ①性別、年齢、障害種別などの属性
- ②スポーツ・レクリエーション活動の実施状況
- ③スポーツ・レクリエーション活動の実施にかかる阻害要因

(4) 調査期間

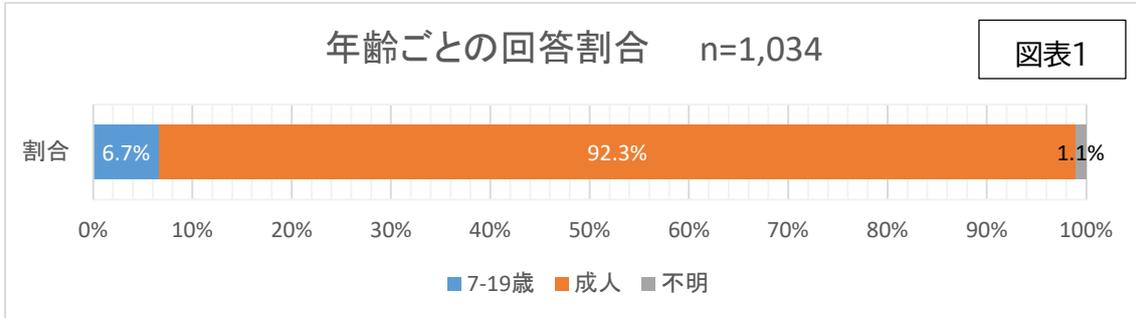
令和4年10月1日から11月4日まで

II 調査結果

1 回答者の属性

(1) 年齢

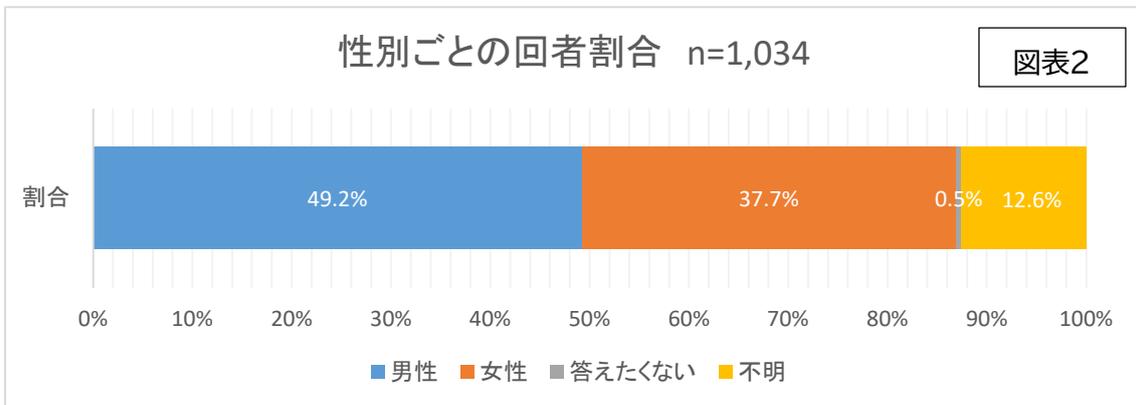
年齢は、19歳以下が6.7%、20歳以上が92.3%であった（図表1）。



	標本数	割合
7-19歳	69	6.7%
成人	954	92.3%
不明	11	1.1%
合計	1,034	

(2) 性別

性別は、「男性」が49.2%、「女性」が37.7%であった（図表2）。

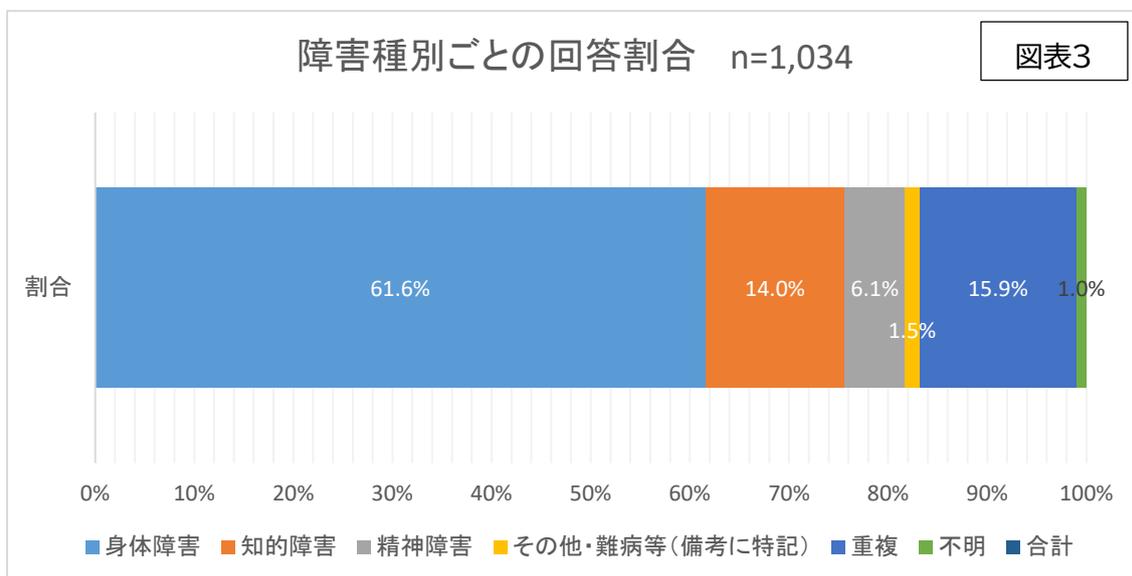


性別	標本数	割合
男性	509	49.2%
女性	390	37.7%
答えたくない	5	0.5%
不明	130	12.6%
合計	1,034	

(3) 障害種別

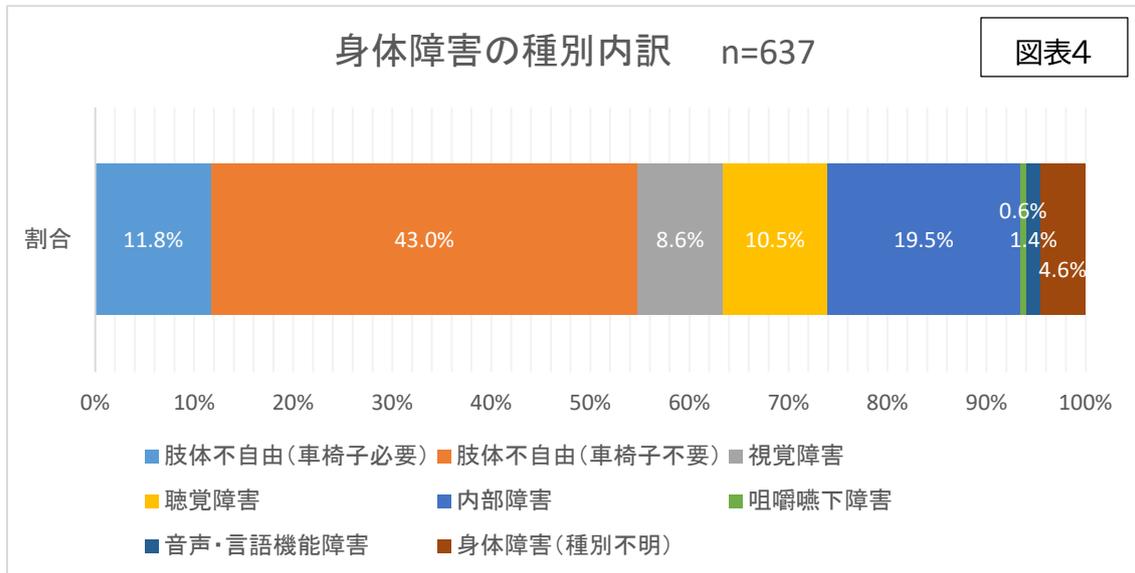
障害の種類は、「身体障害」(61.6%)が最も多く、次いで、「知的障害」(14.0%)、「精神障害」(6.1%)となっている。複数の障害がある方「重複障害」とし、全体の15.9%を占めた。

(図表3)



障害種別	標本数	割合
身体障害	637	61.6%
知的障害	145	14.0%
精神障害	63	6.1%
その他・難病等(備考に特記)	15	1.5%
重複	164	15.9%
不明	10	1.0%
合計	1,034	

身体障害の種別では、「肢体不自由（車椅子必要）」（43.0％）が最も多い。次いで、「内部障害」（19.5％）、「肢体不自由（車椅子不要）」（11.8％）、「聴覚障害」（10.5％）、「視覚障害」（8.6％）、「音声言語機能障害」（0.6％）、「咀嚼嚥下障害」（1.4％）となっている。（図表4）



障害種別	標本数	割合
肢体不自由(車椅子必要)	75	11.8%
肢体不自由(車椅子不要)	274	43.0%
視覚障害	55	8.6%
聴覚障害	67	10.5%
内部障害	124	19.5%
咀嚼嚥下障害	4	0.6%
音声・言語機能障害	9	1.4%
身体障害(種別不明)	29	4.6%
合計	637	

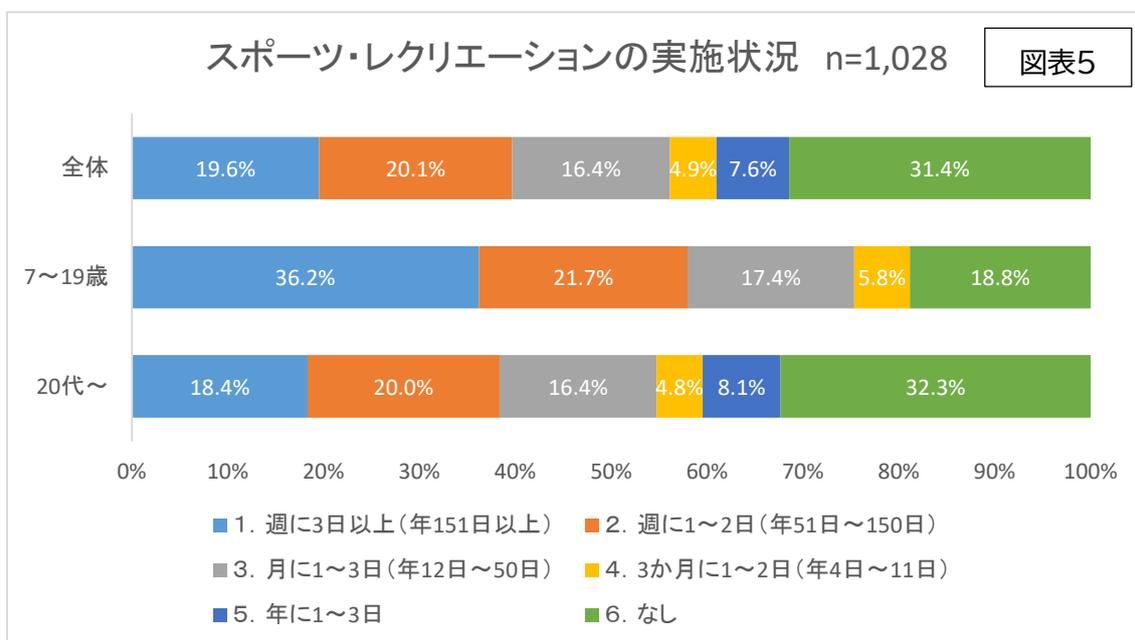
2 スポーツ・レクリエーション活動

(1) 過去1年間のスポーツ活動の実施状況

過去1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、全体で「週に3日以上行った」が19.6%、「週に1~2日行った」が20.1%であり、週1日以上スポーツ・レクリエーションを行っている人の割合は、39.7%となった。(図表5)

また、19歳以下の週1日以上スポーツ・レクリエーションを行っている人は、57.9%、成人の週1日以上スポーツ・レクリエーションを行っている人の割合は、38.4%となっている。(図表5)

国の第2期スポーツ基本計画では、障害のある方の成人の週1回以上のスポーツ実施率の目標値を40%程度としており、令和3年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査研究」では、31.0%であったことから、国の目標値に近づいている状況である。



	全体	7~19歳	20代~
1. 週に3日以上(年151日以上)	19.6%	36.2%	18.4%
2. 週に1~2日(年51日~150日)	20.1%	21.7%	20.0%
3. 月に1~3日(年12日~50日)	16.4%	17.4%	16.4%
4. 3か月に1~2日(年4日~11日)	4.9%	5.8%	4.8%
5. 年に1~3日	7.6%	0%	8.1%
6. なし	31.4%	18.8%	32.3%
合計	100%	100%	100%

障害種別でみると、20歳以上で「なし」と回答したのは「肢体不自由（車椅子不要）」（61.3%）が最も高く、次いで「精神障害」（32.7%）と「重複障害」（32.4%）となった。（図表6）

スポーツ・レクリエーションの実施状況(1)

図表6

障害種別	年齢	N	1. 週に3日以上 (年151日以上)	2. 週に1~2日 (年51日~150日)	3. 月に1~3日 (年12日~50日)	4. 3か月に1~2日 (年4日~11日)	5. 年に1~3日	6. なし
身体障害	7~19歳	3	66.7%					33.3%
	20代~	627	18.3%	19.5%	17.1%	3.7%	8.0%	33.0%
知的障害	7~19歳	36	33.3%	22.2%	22.2%	8.3%		13.9%
	20代~	109	19.3%	15.6%	15.6%	7.3%	11.0%	30.3%
精神障害	7~19歳	8	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%		37.5%
	20代~	55	20.0%	21.8%	14.5%	1.8%	9.1%	32.7%
その他・難病等 (備考に特記)	7~19歳	4	75.0%	25.0%				
	20代~	11	27.3%	36.4%	9.1%		9.1%	18.2%
重複	7~19歳	16	37.5%	18.8%	18.8%			25.0%
	20代~	145	15.9%	22.1%	15.2%	8.3%	5.5%	32.4%
不明	7~19歳	2		100.0%				
	20代~	7	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%		14.3%

※不明等を除いているので、合計が100%にならない場合があります。

スポーツ・レクリエーションの実施状況(2) 身体障害の種別ごと

障害種別 (身体障害)	年齢	N	1. 週に3日以上 (年151日以上)	2. 週に1～2日 (年51日～150日)	3. 月に1～3日 (年12日～50日)	4. 3か月に1～2日 (年4日～11日)	5. 年に1～3日	6. なし
肢体不自由 (車椅子必要)	7～19歳	0						
	20代～	75	9.3%	4.0%	8.0%	4.0%	13.3%	61.3%
肢体不自由 (車椅子不要)	7～19歳	0						
	20代～	271	19.9%	22.9%	18.1%	3.3%	5.5%	29.5%
視覚障害	7～19歳	0						
	20代～	53	22.6%	20.8%	17.0%	5.7%	5.7%	28.3%
聴覚障害	7～19歳	1	100.0%					
	20代～	66	18.2%	18.2%	21.2%	1.5%	12.1%	28.8%
内部障害	7～19歳	0						
	20代～	123	20.3%	20.3%	18.7%	4.1%	8.1%	28.5%
咀嚼嚥下障害	7～19歳	1						100.0%
	20代～	3	33.3%		33.3%			33.3%
音声・言語機能 障害	7～19歳	0						
	20代～	3	33.3%		33.3%			33.3%
身体障害 (種別不明)	7～19歳	1	100.0%					
	20代～	28	10.7%	14.3%	17.9%	7.1%	10.7%	39.3%

(2) -①過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション活動の種類

過去1年間にスポーツ活動を行った人が、どういったスポーツ活動を行ったかについて、障害種別ごとに回答数の多かったものから順に示した(図表7)。

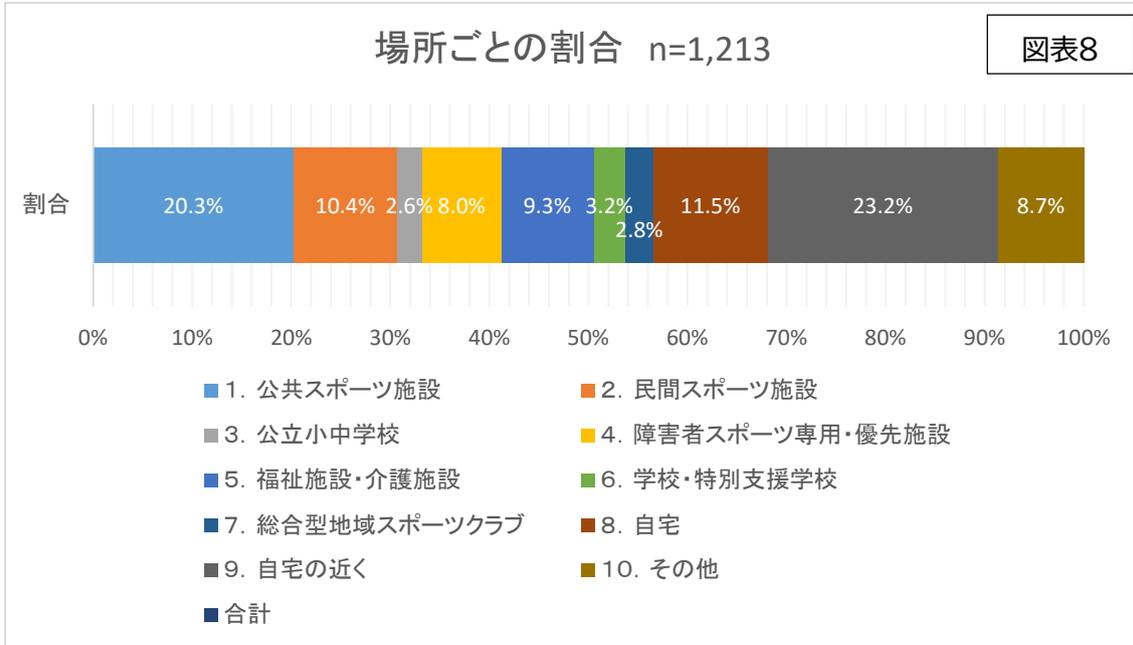
スポーツ・レクリエーション活動の種類(10以上の回答があったもの)

図表7

項目	標本数
散歩・ウォーキング	292
グラウンドゴルフ	172
体操・ラジオ体操	103
ボッチャ	97
水泳	68
レクリエーション	49
卓球	42
自転車・サイクリング	38
ダンス	34
ボウリング	34
トレーニング	31
階段昇降	29
ストレッチ・ヨガ・ピラティス	27
フライングディスク	22
ゴルフ	21
ジョギング・ランニング	17
ニュースポーツ	15
ハイキング・トレッキング	12
野球・ソフトボール	10

(2) -②スポーツ・レクリエーション活動を行っている場所

スポーツ・レクリエーション活動を行っている場所については、自宅(23.2%)が最も多く、次いで、公共スポーツ施設(20.3%)、自宅(11.5%)と続いている。(図表8)。



項目	標本数	割合
1. 公共スポーツ施設	246	20.3%
2. 民間スポーツ施設	126	10.4%
3. 公立小中学校	31	2.6%
4. 障害者スポーツ専用・優先施設	97	8.0%
5. 福祉施設・介護施設	113	9.3%
6. 学校・特別支援学校	39	3.2%
7. 総合型地域スポーツクラブ	34	2.8%
8. 自宅	140	11.5%
9. 自宅の近く	282	23.2%
10. その他	105	8.7%
合計	1,213	

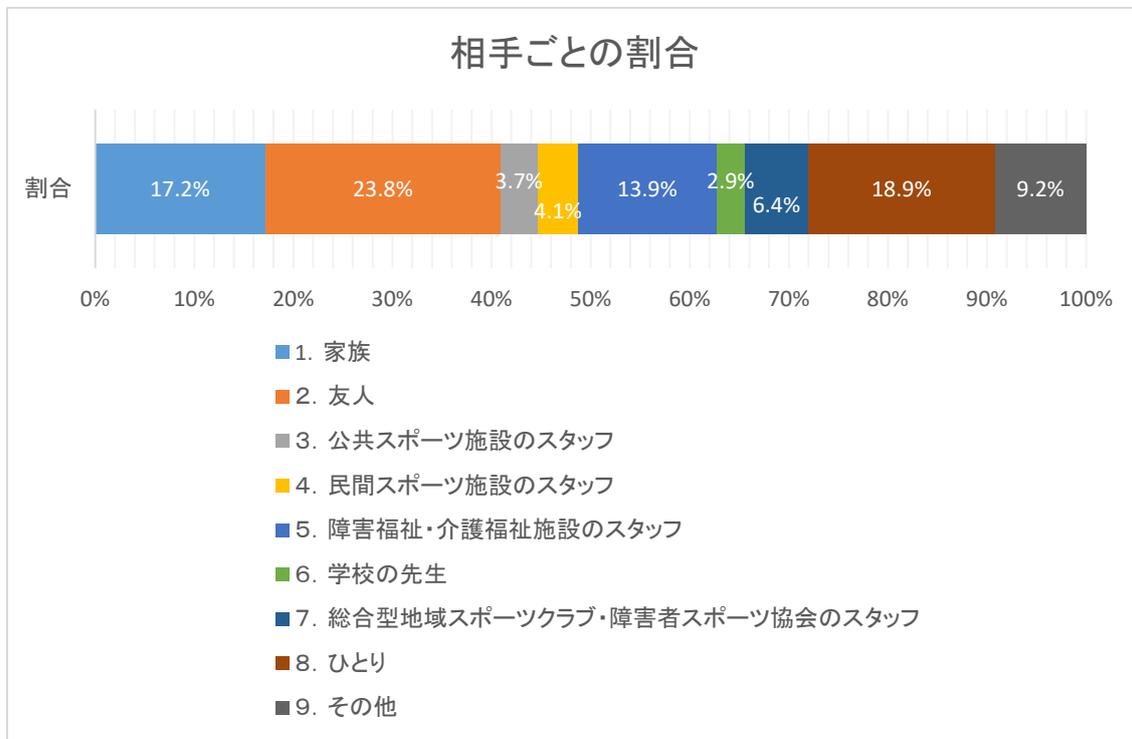
障害種別ごとでは、スポーツ・レクリエーション活動を行っている場所については、どの種別でも自宅近くが最も高い。身体障害と知的障害では、次いで、公共スポーツ施設が多いが、精神障害では、自宅が多い。(図表9)。

図表9

項目	身体障害	知的障害	精神障害
1. 公共スポーツ施設	22%	19%	11%
2. 民間スポーツ施設	12%	7%	11%
3. 公立小中学校	3%	1%	3%
4. 障害者スポーツ専用・優先施設	7%	10%	5%
5. 福祉施設・介護施設	7%	14%	9%
6. 学校・特別支援学校	1%	9%	2%
7. 総合型地域スポーツクラブ	3%	3%	0%
8. 自宅	12%	9%	15%
9. 自宅の近く	24%	21%	27%
10. その他	9%	5%	18%
合計			

(2) -③スポーツ活動を行っている相手

スポーツ・レクリエーション活動を行っている相手については、「友人」(23.8%)が最も多く、次いで、「ひとり」(23.8%)、家族(17.2%)がとなっている。



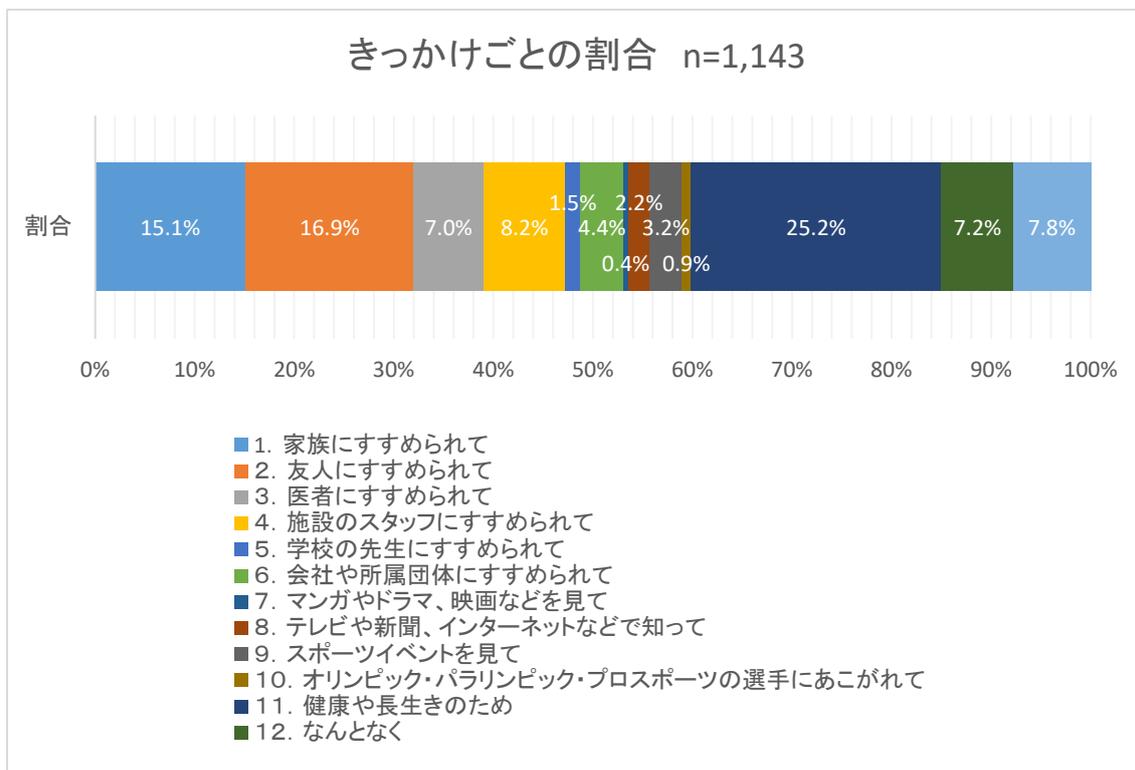
項目	標本数	割合
1. 家族	191	17.2%
2. 友人	265	23.8%
3. 公共スポーツ施設のスタッフ	41	3.7%
4. 民間スポーツ施設のスタッフ	46	4.1%
5. 障害福祉・介護福祉施設のスタッフ	155	13.9%
6. 学校の先生	32	2.9%
7. 総合型地域スポーツクラブ・障害者スポーツ協会のスタッフ	71	6.4%
8. ひとり	210	18.9%
9. その他	102	9.2%
合計	1,113	

障害種別ごとのスポーツ・レクリエーション活動を行っている相手については、身体障害では、「友人」(31.1%)、知的障害では、「家族」(25.0%)、精神障害では「ひとり」が、それぞれ最も高くなっている。

項目	身体障害	知的障害	精神障害
1. 家族	13.0%	25.0%	19.0%
2. 友人	31.1%	10.8%	15.9%
3. 公共スポーツ施設のスタッフ	3.2%	4.9%	1.6%
4. 民間スポーツ施設のスタッフ	3.7%	5.4%	3.2%
5. 障害福祉・介護福祉施設のスタッフ	9.9%	21.6%	15.9%
6. 学校の先生	0.2%	9.3%	3.2%
7. 総合型地域スポーツクラブ・障害者スポーツ協会のスタッフ	7.5%	5.9%	1.6%
8. ひとり	22.0%	8.3%	33.3%
9. その他	9.5%	8.8%	6.3%
合計			

(3) スポーツ・レクリエーション活動を始めたきっかけ

スポーツ・レクリエーション活動を始めたきっかけについては、「健康や長生きのため」(25.2%)が最も多く、次いで、「友人にすすめられて」(23.8%)、「家族にすすめられて」(16.9%)となっている。



項目	標本数	割合
1. 家族にすすめられて	173	15.1%
2. 友人にすすめられて	193	16.9%
3. 医者にすすめられて	80	7.0%
4. 施設のスタッフにすすめられて	94	8.2%
5. 学校の先生にすすめられて	17	1.5%
6. 会社や所属団体にすすめられて	50	4.4%
7. マンガやドラマ、映画などを見て	5	0.4%
8. テレビや新聞、インターネットなどで知って	25	2.2%
9. スポーツイベントを見て	37	3.2%
10. オリンピック・パラリンピック・プロスポーツの選手にあこがれて	10	0.9%
11. 健康や長生きのため	288	25.2%
12. なんとなく	82	7.2%
13. その他	89	7.8%
合計	1,143	

障害種別ごとのスポーツ・レクリエーション活動を始めたきっかけについては、身体障害では、「健康や長生きのため」が最も高く、知的障害と精神障害では、「家族にすすめられて」が、それぞれ最も高くなっている。

きっかけ	身体障害	知的障害	精神障害
1. 家族にすすめられて	8.8%	34.3%	20.9%
2. 友人にすすめられて	20.8%	6.6%	9.0%
3. 医者にすすめられて	6.9%	5.0%	9.0%
4. 施設のスタッフにすすめられて	6.0%	14.4%	6.0%
5. 学校の先生にすすめられて	0.1%	5.5%	0.0%
6. 会社や所属団体にすすめられて	4.7%	5.5%	3.0%
7. マンガやドラマ、映画などを見て	0.4%	0.6%	1.5%
8. テレビや新聞、インターネットなどで知って	2.5%	1.1%	1.5%
9. スポーツイベントを見て	3.5%	2.8%	0.0%
10. オリンピック・パラリンピック・プロスポーツの選手にあこがれて	0.6%	1.1%	3.0%
11. 健康や長生きのため	30.9%	11.0%	19.4%
12. なんとなく	7.6%	5.0%	14.9%
13. その他	7.0%	7.2%	11.9%

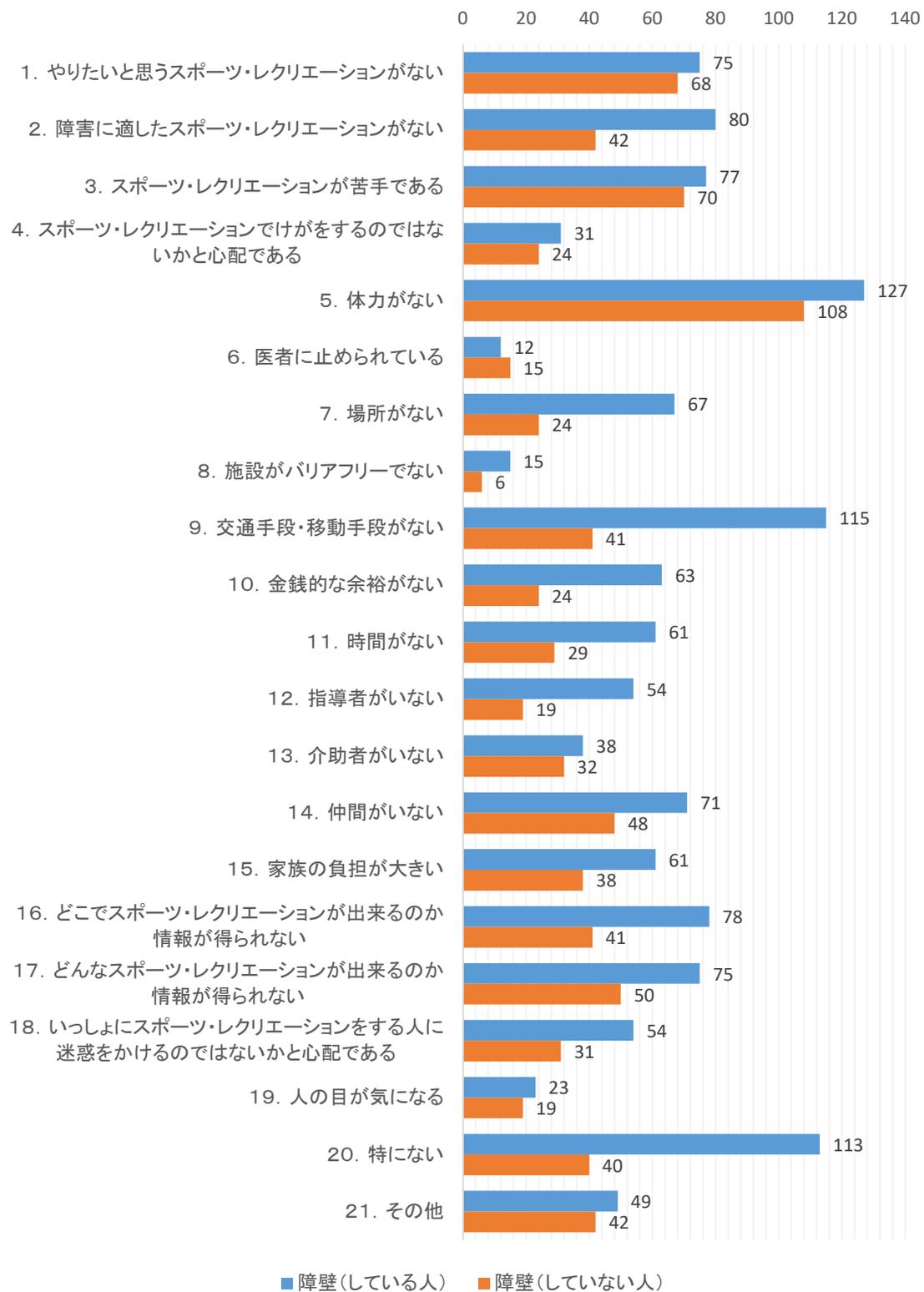
(4) スポーツ・レクリエーション活動を行うことを難しくさせるもの

スポーツ・レクリエーション活動を行うことを妨げるものについては、年1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている人では、「体力がない」(127票)が最も多く、次いで「交通手段・移動手段がない」(115票)が続く。また、妨げるものが「特にない」と回答している人も113票となっている。

年に1度もスポーツ・レクリエーションを行っていない人では、「体力がない」(127票)が最も多いが、次いで、「スポーツ・レクリエーションが苦手である」(42票)、「やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない」(68票)となっている。

スポーツ・レクリエーションを行っている人も、いない人も「どこで・どんなスポーツ・レクリエーションができるのか情報が得られない」の回答が多い。

スポーツ・レクリエーション活動を行うことを妨げるもの



項目	している人	していない人
1. やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	75	68
2. 障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	80	42
3. スポーツ・レクリエーションが苦手である	77	70
4. スポーツ・レクリエーションでけがをするのではないかと心配である	31	24
5. 体力がない	127	108
6. 医者に止められている	12	15
7. 場所がない	67	24
8. 施設がバリアフリーでない	15	6
9. 交通手段・移動手段がない	115	41
10. 金銭的な余裕がない	63	24
11. 時間がない	61	29
12. 指導者がいない	54	19
13. 介助者がいない	38	32
14. 仲間がいない	71	48
15. 家族の負担が大きい	61	38
16. どこでスポーツ・レクリエーションが出来るのか情報が得られない	78	41
17. どんなスポーツ・レクリエーションが出来るのか情報が得られない	75	50
18. いっしょにスポーツ・レクリエーションをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である	54	31
19. 人の目が気になる	23	19
20. 特にない	113	40
21. その他	49	42
合計	1,339	811